清流の国ぎふ　防災・減災センター　げんさい未来塾スーパーバイザー

伊藤三枝子（いとうみえこ）

1956 年福井県生まれ．大垣市在住．2013 年に防災士を取得．岐阜市・大垣市を中心に岐阜県内で各種団体，自治会，学校などで講演会や研修会の講師を務めている．2016 年 4 月より，「清流の国ぎふ 防災・減災センター」主催の，自主防災活動を主体的に担う人材を育成する「げんさい未来塾」に入塾．2017 年 1 月に「清流の国ぎふ 女性防災士会」を立ち上げ会長として就任．2017 年 3 月げんさい未来塾を卒塾後はげんさい未来塾 1 期生として，避難所設営訓練、暮らし目線の HUG（ハグ：避難所運営図上訓練）や地域の問題点を知る DIG の指導を行っている．また子ども，障がい者，外国人など要配慮者のための防災活動をはじめとして，家庭や学校などにおいて日常生活の防災力向上を目指し，講演会や研修会などの活動を行っている．地域においては複数の町による避難所運営委員会を設立，合同防災訓練を通じ非常時における協力体制を構築するため一緒に活動している．2020 年 3 月から，オンライン会議室 Zoom を使った防災講座にも取り組んでいる．2020 年 4 月「清流の国ぎふ 防災・減災センター」コーディネーターに就任．主な災害ボランティア活動として，2011 年東日本大震災では，岩手県，宮城県．平成 30 年 7 月豪雨では，関市，広島市，倉敷市真備町．平成 31 年台風 19 号では長野市などでそれぞれ活動を行った．

岩井慶次（いわいけいじ）

1956 年恵那市に生まれ，アマチュア無線技士や消防設備士の資格を取得．恵那市防災研究会会長として防災講座の講師を務めながら地域の自主防災組織の重要性を説く．東濃地方に発足させたネットワーク組織「地域防災力強化ネットワーク会議」の幹事を務めている．2020 年より日本防災士会岐阜県支部長に就任し，2021 年から日本防災士会理事を務め全国を目線に活躍している．趣味のアマチュア無線がきっかけで，電気設計設備会社の役員を務めながら「恵那地区アマチュア無線防災協議会」の会長として警察や消防と連携しながら，非常時の通信体制などについて行政と協定を結びボランティアで支援している．2006 年に防災士の資格を取得し，各地で防災の心構えや災害時のノウハウを伝える活動をしている．2012 年 5 月には東日本大震災の貢献が認められ，社会貢献支援財団より表彰されている．2015 年 4 月より，岐阜県と岐阜大学が共同設置した地域防災の実践的シンクタンク機能を担う「清流の国ぎふ 防災・減災センター」コーディネーターに就任．さらなる高度な知識や見識を習得し，地域防災の要となる人材である「防災エキスパート」の育成に尽力している．

くりたのぶゆき
栗田暢之

1964 年岐阜県瑞穂市（旧穂積町）生まれ．名古屋大学大学院環境学研究科修了．1995 年阪神・淡路大震災を契機に，現在まで 50 ヶ所を超える災害現場で支援活動を展開するほか，平常時には，被災地での学びを生かした地域防災力向上や災害ボランティア育成等に尽力している．2000 年東海豪雨水害時は「愛知･名古屋水害ボランティア本部」本部長を務めた．2011 年東日本大震災では東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）代表世話人，愛知県被災者支援センター長なども務める．震災がつなぐ全国ネットワーク代表，災害ボランテイア活動支援プロジェクト会議幹事，その他、中央防災会議専門調査会委員ほか国の省庁や愛知県地震対策有識者懇談会委員など地方自治体の各種検討会委員も歴任．また，多様なセクターとの連携推進を図るため，特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）を 2016 年に設立し，代表理事を兼任．岐阜大学、至学館大学非常勤講師も務める．2015 年清流の国ぎふ 防災・減災センターコーディネーターに就任.

のじりともひろ
野尻智周

1972 年岐阜生まれ。2003 年岐阜大学大学院連合農学研究科を単位修得修了。現在、ぎふ NPO センター　理事・事務局長、NPO 法人　森のなりわい研究所　副代表理事、一般社団法人 Nancy（ぎふマーブルタウンの実施団体）理事などのほか、複数のボランティア団体の運営に携わる。山歩きが趣味だったため、大学は農学部林学系を専攻。研究の一環として市民参加の森づくりなどにも関わる。大学卒業後は環境調査、ワークショップの運営、自然環境学習のサポート等等に携わる。2005 年の愛・地球博では地球市民村小パビリオン「森のいろいろ館」でコーディネーターを努める。2007 年より岐阜市の中間支援センター勤務を経て、2017 年よりぎふＮＰＯセンターに入職。同年 9 月から事務局長。「人づくり」を進めて「まちづくり」につなげるため、日々奮闘中。

こやまま き
小山真紀

1972 年岡山県生まれ．1998 年山口大学大学院理工学研究科知能情報システム工学専攻博士前期課程を修了．NTT でシステムエンジニアとして勤務した後，1999 年より(財)地震予知総合研究振興会東濃地震科学研究所で地震防災に係わる研究に従事しつつ 2004 年に東京工業大学総合理工学研究科人間環境システム専攻にて博士（工学）を取得．2010 年より京都大学の安寧の都市ユニットにおいて，都市系工学と健康科学の両面から，健康で過ごしやすい，災害時にもレジリエントな社会を実現するための教育・研究に従事．2015 年より現職（岐阜大学流域圏科学研究センター准教授）．2022 年より岐阜大学地域減災研究センター副センター長（減災社会推進部門長）を併任．専門は地域防災学であり，災害時の人間行動と死傷に関する研究，コミュニティや市町村の防災対応など災害サイクル全体を通じた研究を続けている．現在は地震防災だけにとどまらず，世帯及び地域コミュニティにおける防災力（世帯・地域コミュニティの災害に対するレジリエンス）や，社会の多様性が広がる中，それぞれの事情に基づく困難さや対応のあり方などに着目した取り組みを進めている．オンライン講座「事例に学ぶ災害対策」と「事例に学ぶ災害対策-要支援者対策編」を YouTube で配信中．

詳細はこちら（https://researchmap.jp/makik）